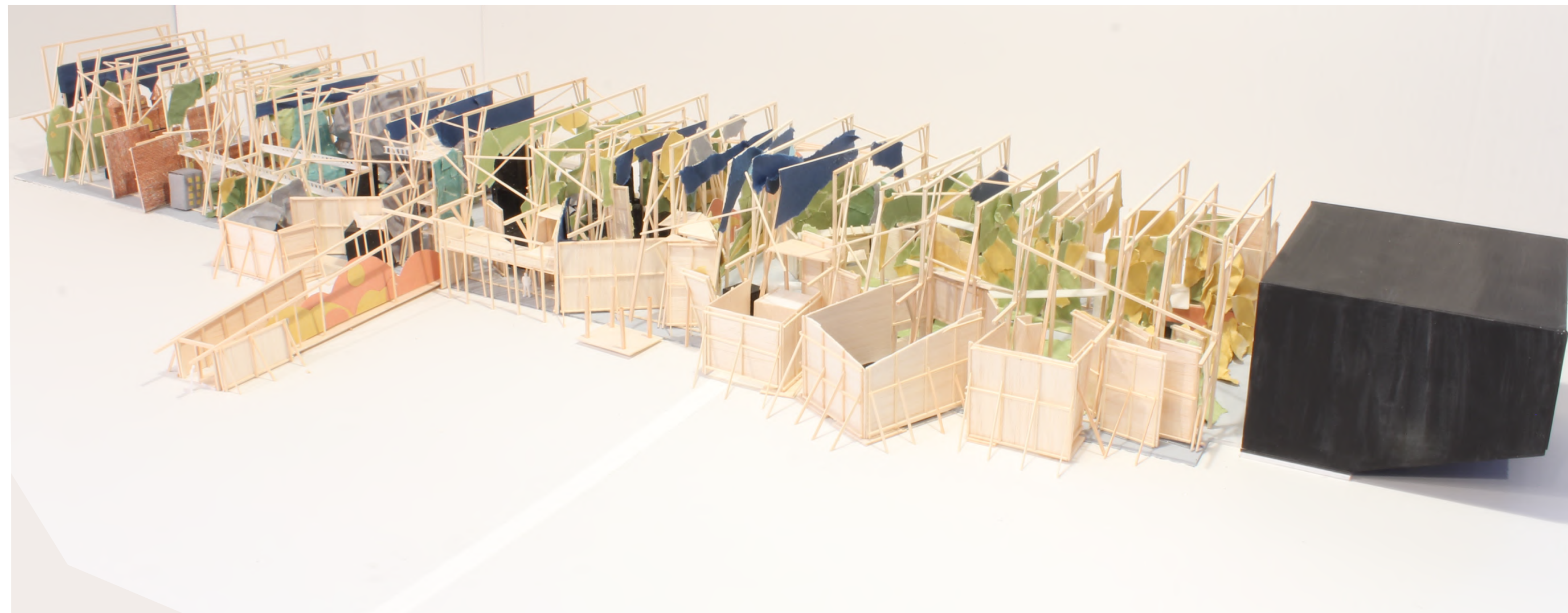


共鳴する洞窟
-紡ぐ劇場-



共鳴する洞窟

「継ぎ足し」劇場

この建築は劇場である。
ここでは、過去の公演に「継ぎ足し」するように舞台を作る事で、過去の物語を断片として蓄積していく。異なる物語の痕跡に満ちたこの劇場は、人と物のふるまいが共振し、次なる演劇が始まる時、新しい物語が過去の物語に共鳴するような、劇場となるになる。

終演しても原状復帰しない
舞台道具を残す



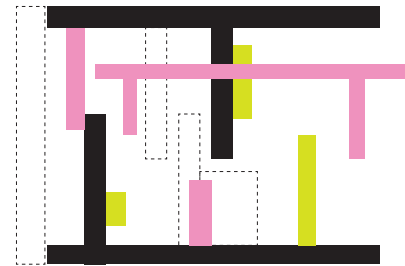
第 n 回 劇場

過去の舞台道具も含めて劇場



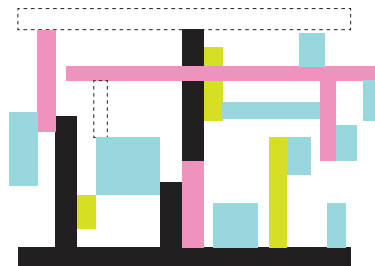
第 n+1 回 劇場

過去の大道具にぶら下げたり、足したり、



第 n+2 回 劇場

削ったり、塗りつぶしたり、



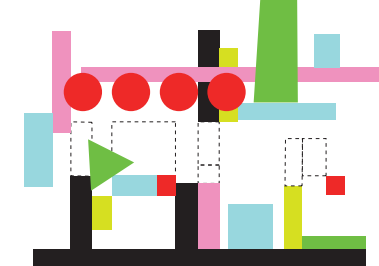
第 n+3 回 劇場

断片化した物語が蓄えられ続け、
舞台道具と劇場に境目はなくなる



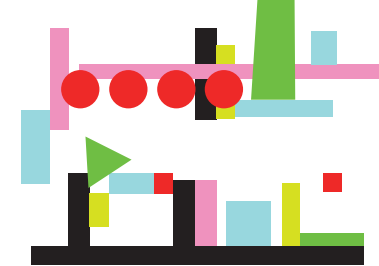
第 n+4 回 劇場

断片は、終演と同時に眠りにつき



第 n+5 回 劇場

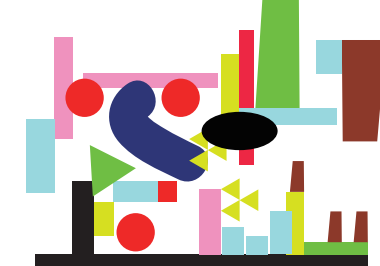
いつか未来の公演で、
過去の物語に共振し、
呼び起こされる



第 n+6 回 劇場



ここで行う舞台は、
この劇場特有の共振を起こす。
秘伝の洞窟になるのだ



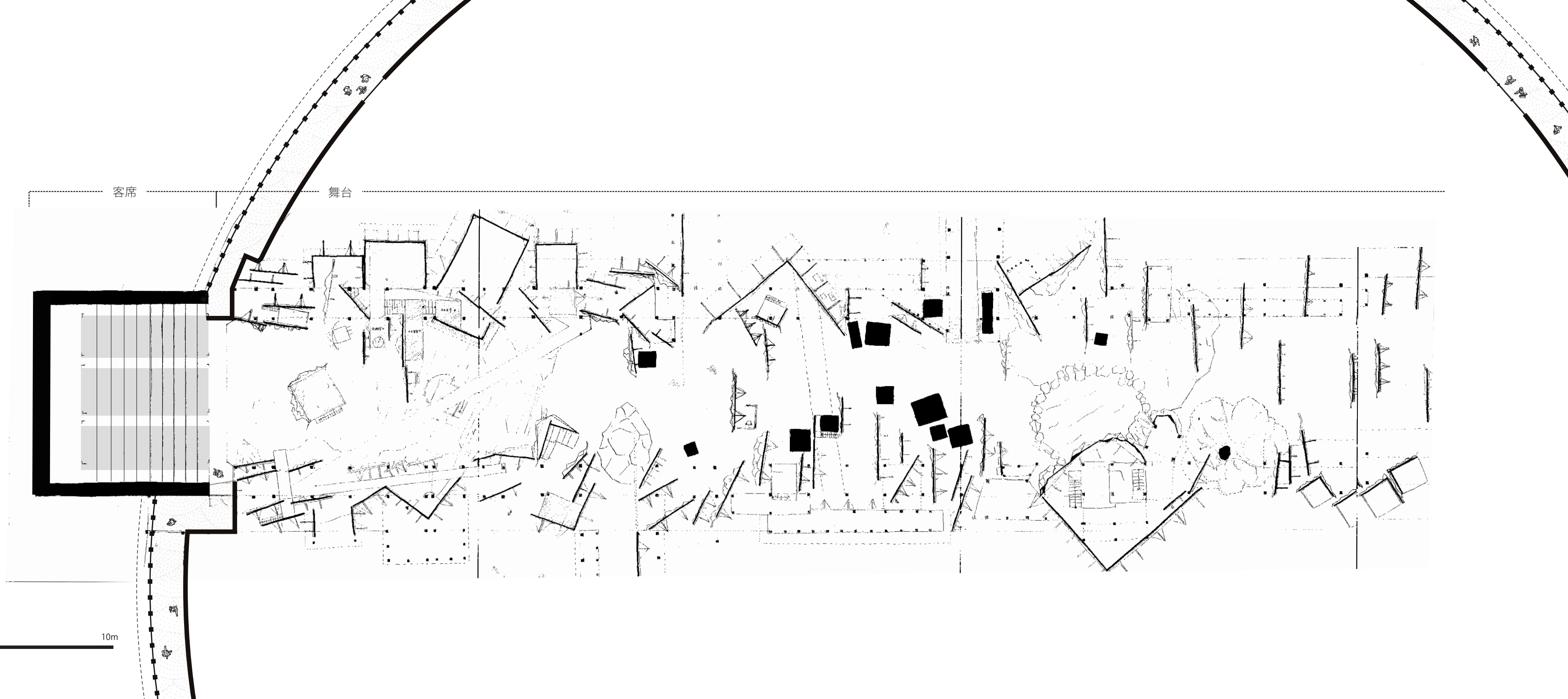
第 ∞ 回 劇場

1. 秘伝のたれ

ここでは断片となった舞台道具たちは、公演毎に役割をかえる。ある公演ではキリストを吊るす十字架であった構造物は、次の公演で、一家の大黒柱へと意味を変え登場する。二つの物語が重なりあい、過去の物語が時折共鳴することで現在の公演に奥行きを与える。

平面図 0m 1m 10m

* ある一時の平面





2. 共振と共鳴

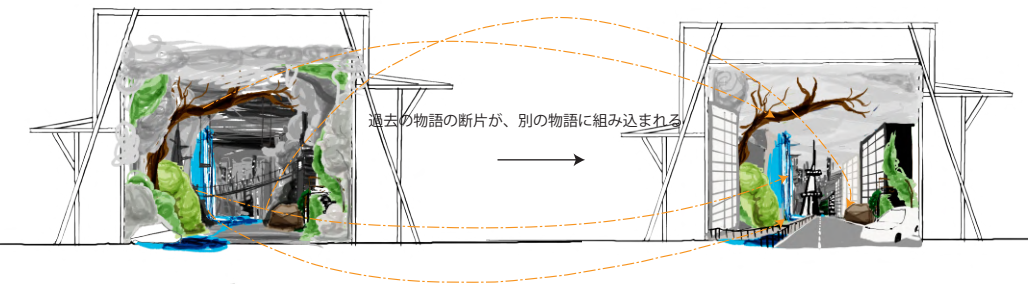
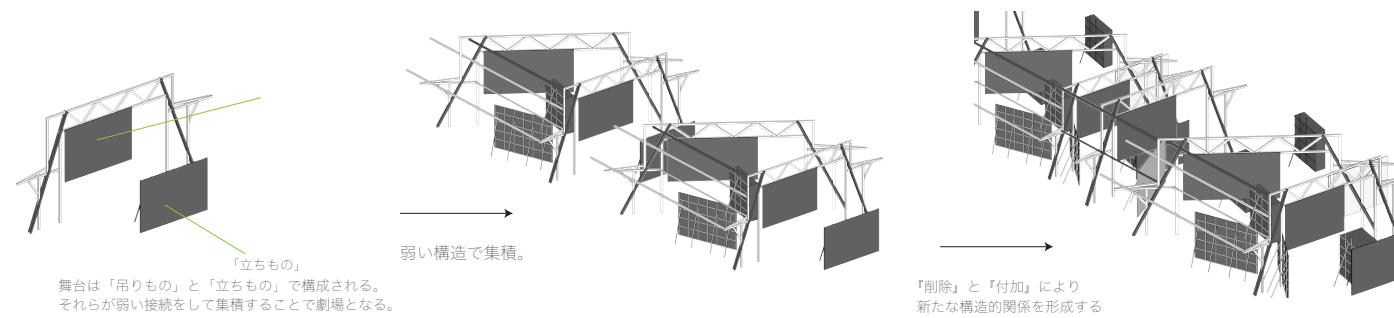
共振によって伝わる振動は単一の音ではない。固有振動数の倍音や、物質が持つ雑振動が合成されていて、一音に聞こえる音であっても様々な音波を含む。

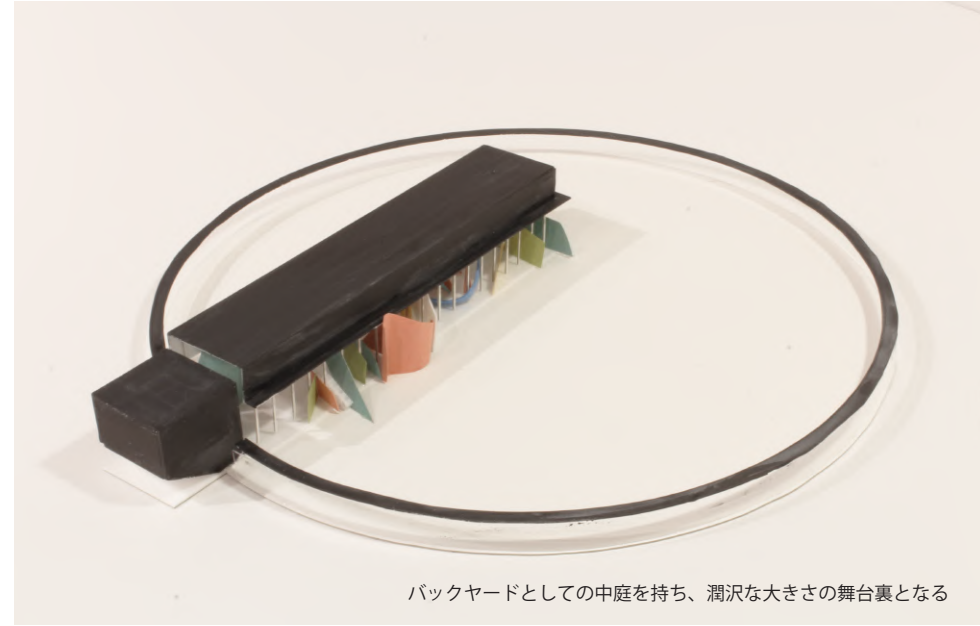
また単一の振動から始まる共振であっても、関与する対象が複数あるとき、その共振から副次的に混ざる音も複雑なものとなる。共振という単一に統一された振動の裏側には、複雑な微振動群=共鳴が鳴り響いているのだ。



3. 過去の共鳴と劇場

構造的再接続





バックヤードとしての中庭を持ち、潤沢な大きさの舞台裏となる



両サイドに増設に伴い底が増えていく



無限に繰り返される「付加」「削除」は「客席からの視点」のみがコントロールし、劇場の密度・長さをも変化させる。
物語の断片は、この深い奥行きに蓄えられ、いつの日か、断片は発掘され再度、新たな物語の一部となる。